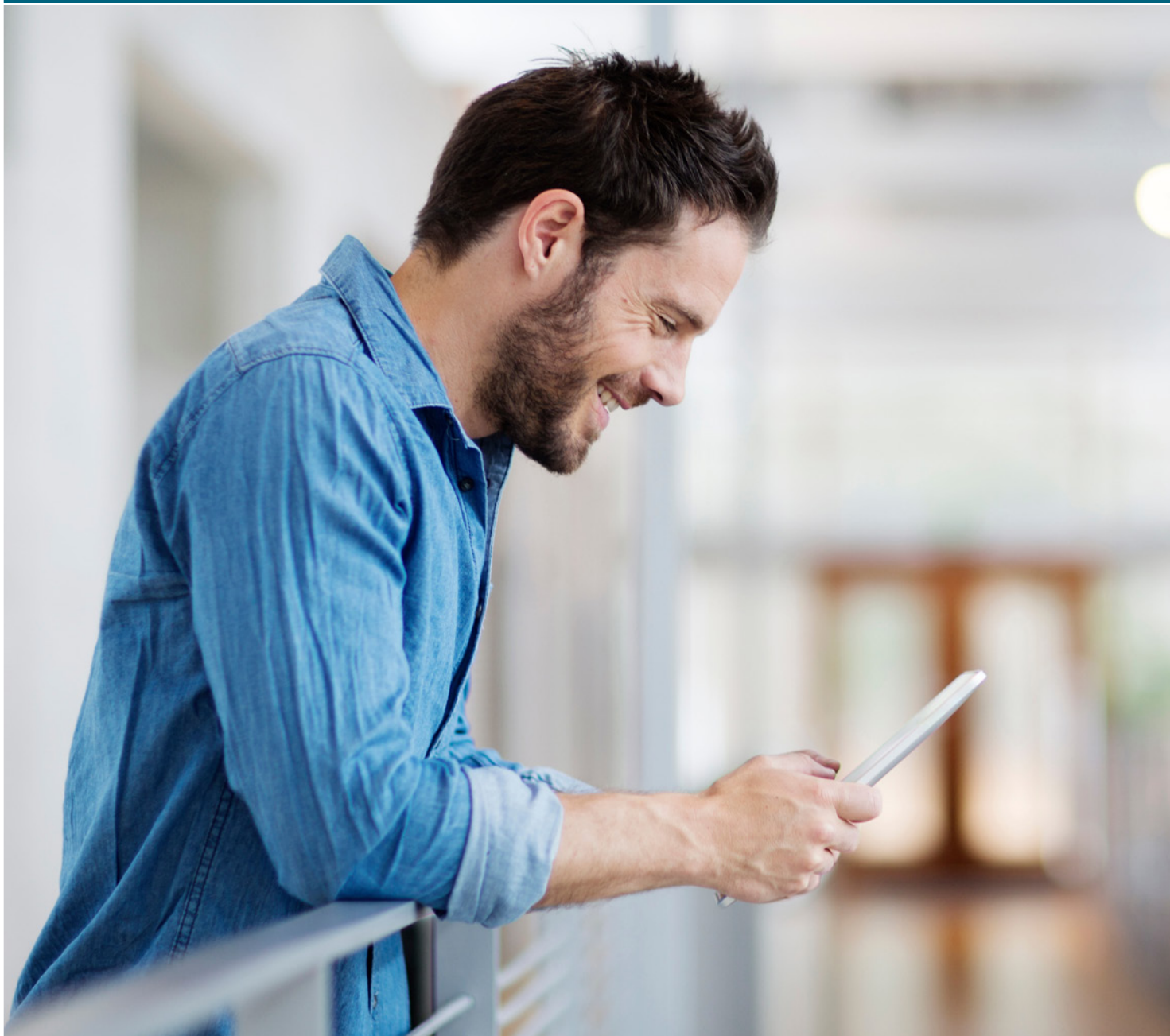


データリテラシー指標

5億ドルの企業価値を獲得する機会

調査結果の要約



序文

世界中のあらゆる業界で、意思決定に利用できるデータが急増しています。しかし、データの中に存在する価値の大部分は、あまりにも長い間、それから意味を引き出すことができる人々の手から引き離されてきました。



Mike Capone
(マイク・カポネ)
CEO、Qlik

自動化、ロボット、人工知能は、私たちの生活や仕事の仕方に根本的な変化をもたらしています。データは、この第4次産業革命の普遍的言語です。

企業は、コンピューター上で質問を行い、データから知識を構築し、意思決定を下すとともに、その意味について他の従業員と意見を交換できる従業員を必要としています。

しかし私たちの多くは、いまだ適切な行動を判断するための有用な情報をデータから獲得できていません。今日、データスキルを持つ従業員は全体のごく一部であり、データは民主化されていません。データ主導型意思決定を行っても有利な評価につながらず、奨励もされていません。

なぜでしょうか。それは、組織がデータの重要性と実践的有用性は認識していても、いわゆるデータリテラシー（組織が組織全体にわたってデータとインサイトを読み取り、分析し、意思決定に使用し、やり取りする能力）の重要性を正しく認識していないためです。

多くの組織が、データのもたらす壮大な機会を効果的に活用するという課題に迫られています。私たちは、この火急の課題を解決するため、企業のデータリテラシーに関するきわめて必要性の高い調査を実施しました。

データリテラシー指標は、データリテラシーと、企業がデータリテラシーから獲得できる価値との関係の解明を目的とした調査の成果です。これにより、初めて会社業績と従業員のデータリテラシーとの相関関係が明らかになり、組織が自己評価に使用できる基準が確立されました。

データリテラシー指標は、単なる現状把握のための興味深い分析として作成されたものではありません。ビジネスリーダーがその市場シェアを守り、データ革命に乗り遅れないための切り札です。

以下では、貴社がデータリテラシーの実現によって企業価値を最大5億ドル拡大できることを示すとともに、世界のビジネス意思決定者がデータリテラシーの機会に対してどのような意識を持っているのかを説明します。

データリテラシー指標は、QlikがData Literacy Projectのために委託しました。調査および分析は、IHS Markit、PSB Research、およびUniversity of Pennsylvania、Wharton Schoolの研究者によって行われました。

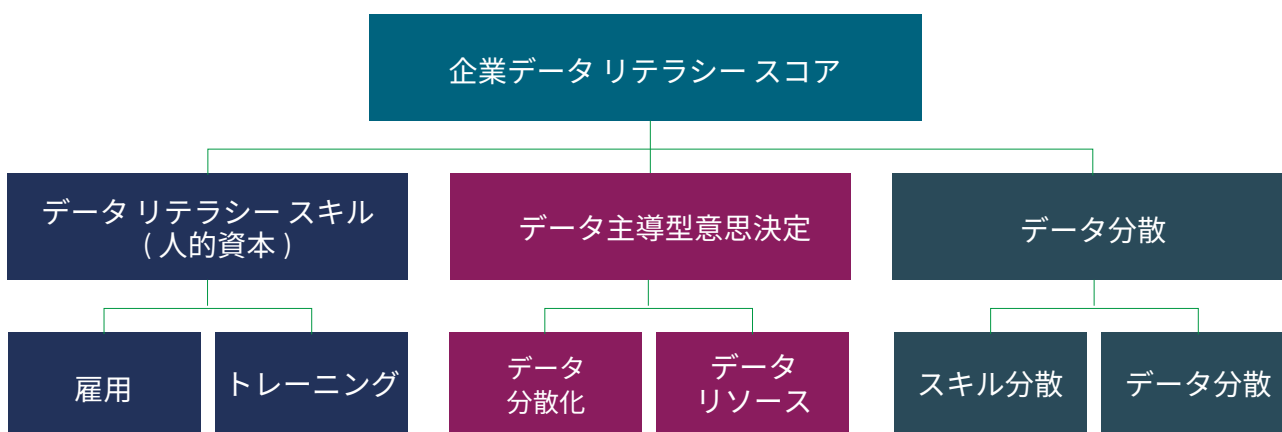
「企業」データリテラシーとは

データリテラシーという用語は通常、個人に対して使用されます。データサイエンティストやアナリストに求められるデータの高度な技術的理解は必要ではなく、データを読み、使い、分析し、データを使って議論する能力を測る指標です。

同様に、企業データリテラシーは科学的組織や技術的な組織に限定されず、また単にデータの専門家を雇用することで達成できるものではありません。私たちは企業データリテラシーをまず、「組織が、組織全体にわたってデータを読み、分析し、意思決定に利用し、データを使って議論し、データをやり取りする能力」と定義しました。

また組織全体における企業リテラシーの形を定義するため、データリテラシーの3つの主要要素を特定しました。

企業データリテラシーの主要要素



出典：IHS Markit

データリテラシースキル

データリテラシーを備えた組織であるためには、従業員自身がデータリテラシーを備えている必要があります。ほとんどの組織は雇用によってデータスキルを獲得しますが、全員がデータを理解してそれぞれの役割でデータを使用するためには、教育プログラムも必要です。

データ主導型意思決定

データ主導型意思決定は、2つの異なる側面に基づいて測定されます。1つはデータの分散化です。これは従業員が各自の役割での意思決定に必要な必須データにアクセスできることを指します。2つ目はデータリソースです。これは、インサイトがデータ主導型意思決定をサポートするような形で取得されて表現されることを意味します。

データ分散

データスキルの分散は、組織内におけるデータ利用の普及の程度を測る指標です。専門の部門だけでなく、すべての部門がインサイトを導き出し、それに基づいて行動できる必要があります。

企業データリテラシースコアの確立

IHS Markit と Whart の研究者グループは、この定義を使用して、「企業データリテラシー (CDL) スコア」という新しい測定システムを開発しました。この測定システムでは、企業データリテラシーの3つの軸である、従業員のデータスキル (人的資本)、データ主導型意思決定、データスキルの分散 (組織全体にわたるデータ利用の普及の度合い) を基準として、組織のパフォーマンスが判定されます。世界中から集められた標本では、CDLスコアの分布は最小が0、最大が100です。

データリテラシー指標： 5億ドルの機会を解明する

適切に処理したデータが、組織の競争力を維持するうえで重要な資産になることは広く知られています。しかしデータリテラシーが財務業績にもたらす影響を定量化するための実証研究は、これまで存在しませんでした。

データリテラシー指標は、この空白を埋めるものです。厳密なモデルによって企業データリテラシースコア別に企業がランク付けされ、リテラシーレベルと会社業績の指標との相関が試みられました。

結果は驚くべきものでした。データリテラシー指標により、次のことが明らかになりました。

- 従業員のデータリテラシーは、企業業績と相関関係があることが証明されました。データリテラシー指標の上位3分の1にランクされている組織は、3～5%高い企業価値(時価総額)を示しました
- この調査の平均的な組織規模(企業価値1,070億ドル)をベースとすると、企業データリテラシースコアが高い企業は、それよりも企業価値が3億2,000万ドルから5億3,400万ドル高くなる可能性があります
- 企業データリテラシーの向上は、売上総利益、資産利益率、株主資本利益率、売上利益率など、その他の企業業績指標にもプラスの影響を与えます

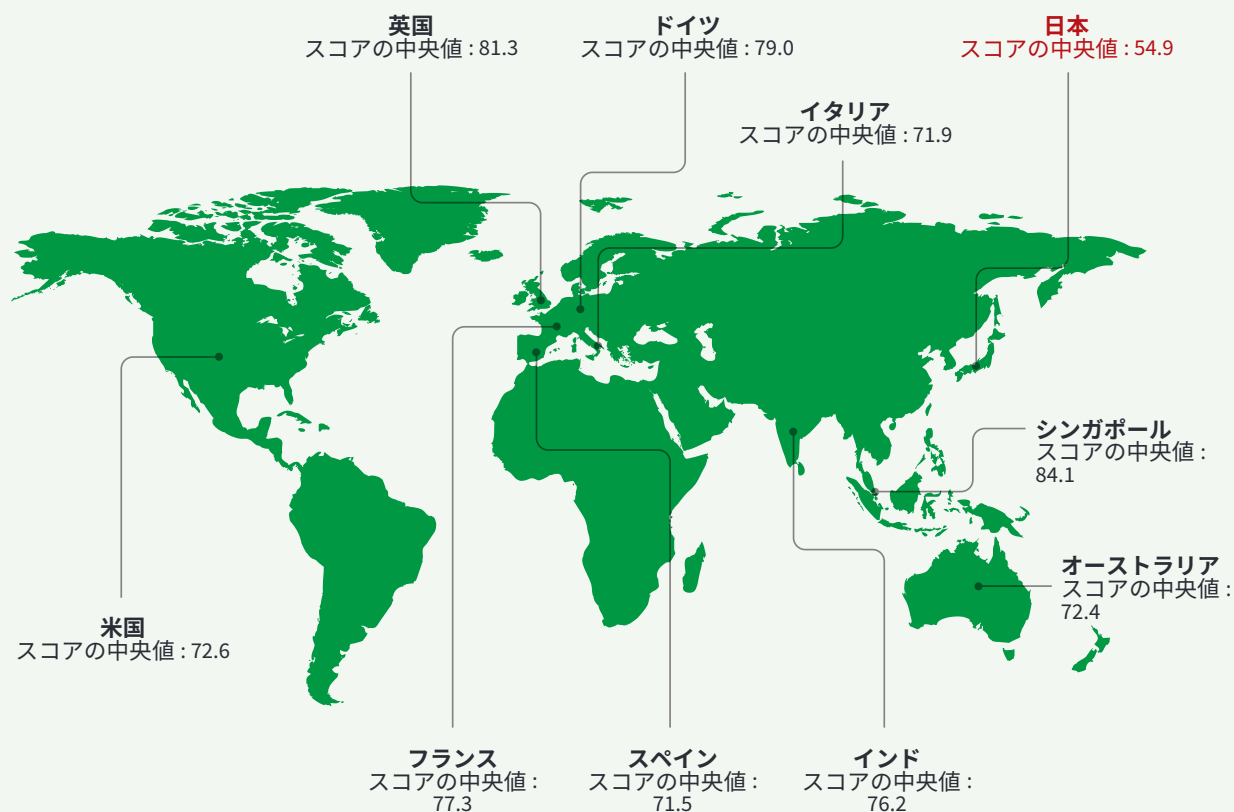
世界的見地からの結果

企業データリテラシーと企業業績の間のプラスの関係は、分析対象のすべての地域と業界にわたって一貫しており、その内訳はビジネスリーダーにとって明確な基準値となります。

地域ごとの差異

- ヨーロッパは世界で最も高いデータリテラシースコアを示しています。イギリス、ドイツ、フランスなどは、企業データリテラシーが最も成熟した国です
- これは、ヨーロッパのビジネス意思決定者が持つ、データの価値に対する認識の高さを反映しています。72%がデータは「非常に重要」と答えていますが、これはアジアではわずか60%、米国では52%でした。このことはまた、意思決定にデータを利用する企業の割合や、従業員のデータリテラシー向上を奨励する企業の割合にプラスの影響があるようです
- 米国およびアジア太平洋地域のデータリテラシースコアはわずかに下回りましたが、互いに統計的な差はありませんでした
- シンガポールはアジア太平洋地域で例外的なスコアを記録しました。世界で最もデータリテラシーの高い国です
- 米国の状況は他の地域と異なり、ビジネスリーダーの半数近くが自社のデータ利用は少なくとも「かなり」変化したと答えています。これはすべての地域の中で最も高い数値です。しかし、組織が変化を経験しているほどには投資が行われていません。米国のビジネスリーダーの回答によると、データリテラシーのトレーニングを実施している会社(30%)と従業員のデータリテラシー向上を「強力に奨励」している会社(わずか16%)は、いずれも最も低いレベルにとどまりました。

地域ごとの差異

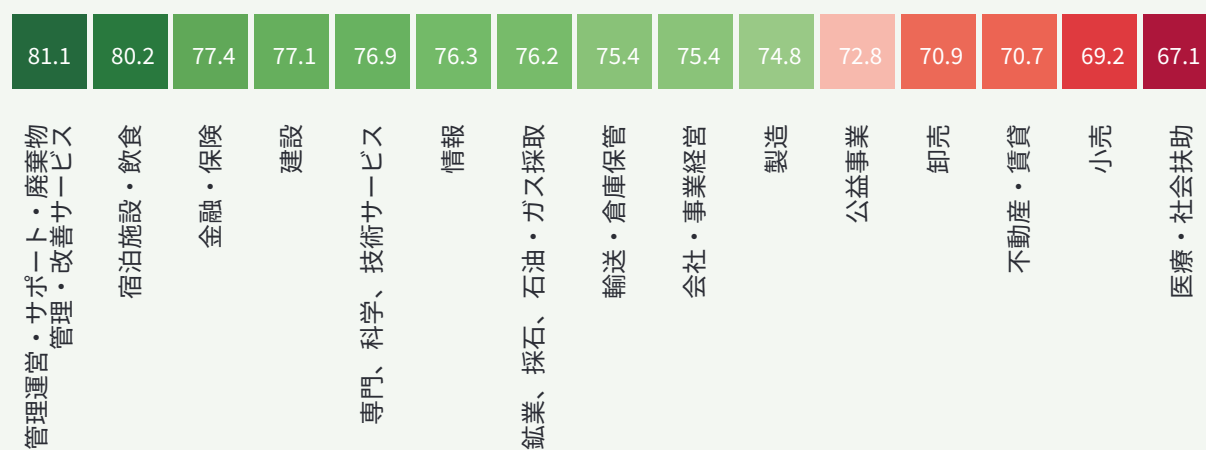


出典：IHS Markit

業界のリーダー

企業データリテラシーは、地域間よりも業種間で大きな差異を示しています。

業種別の CDL スコアの中央値



出典：IHS Markit

企業のデータリテラシーで改善が必要な事項

データリテラシーの理解、導入、および投資は、地域や業界によって差異がありますが、データリテラシー指標に使用された世界各地のビジネス意思決定者の調査において、組織の効果的なデータ活用を妨げる可能性のある領域が特定されています。

保有データに対する認識の不足

会社はデータの重要性を認識していますが、それがビジネス業績や経済業績の改善に役立つという認識が不足しています。ビジネス意思決定者の93%が業界にとってのデータリテラシーの実践的有用性と、従業員のデータリテラシーの重要性を認めています。データリテラシーが経済的成功を左右する重要な要因だと考えるビジネス意思決定者は全体の3分の1を下回っています。

データスキルの価値

会社はデータスキルを強化する必要性を認識し、大企業の63%がデータリテラシー関連の従業員増強を計画しています。しかし、相当なスキル不足が存在しています。世界中の従業員のうち、データを読み、使い、分析し、データを使って議論できる能力に完全に自信のある従業員はわずか24%に過ぎません。

世界中の従業員の78%がデータスキルセットの強化にさらに多くの時間と労力をかけたいと答えているのに対し、現在データリテラシーのトレーニングを実施している企業はわずか34%、従業員のデータリテラシー向上を「強力に奨励」している企業はわずか17%に留まっています。会社による企業のスキルアップの動機付けも薄弱です。データリテラシーを備えた従業員に対して給与を上乗せすると答えたビジネスリーダーは、わずか36%でした。

意思決定におけるデータの不足

ほぼすべてのビジネスリーダーが、データは自社の業界にとって重要であるとともに、自社の現在の意思決定プロセスにおいて重要であると認識しています。しかし、驚くべきことに、過去5年間にデータ利用の方法を大幅に変更した企業はわずか8%でした。

実際、データ主導型意思決定は、企業データリテラシーの3つの軸のうち最も低いスコアに留まりました。したがってすべての事業部門にデータリテラシーを備えた従業員が配置されている会社でも、データから有用な情報が十分に抽出されていない可能性があります。

複数のデータテクノロジーの連携

企業データリテラシーの指標には含まれていませんが、この調査では、ビジネスインテリジェンス、高度なアナリティクス、ビジュアライゼーションなどの特定のテクノロジーもまた、企業業績にプラスの影響を与えることが明らかになっています。

センサー、エッジデバイス、強力なコンピューティング能力など、モノのインターネットによって、これまでにない量のデータが生成されています。データ技術によるデータの簡素化は、従業員の迅速なデータ分析とデータ解釈を可能にします。しかし、ツールの効果がそれを使う人の能力を超えることはありません。会社には、データを適切に入力でき、より適切なインサイトを生成するとともに、そのデータを活用して情報に基づく意思決定を下せる従業員が必要なのです。

次のステップ

データの威力が急速に増している世界において、データリテラシーは文字の読み書きと同じくらい重要です。豊富なデータが存在する世界で組織が競争力を維持するには、あらゆる機会を捉えて情報に基づく業務処理や意思決定を行えるように体制を整える必要があります。

しかしデータリテラシーの価値は、いまだ広い経済の観点から認識されておらず、従業員、リソース、またはプロセスに対して必要な変更を行っている企業はごくわずかです。データリテラシー指標によって、会社業績に対する企業データリテラシーの重要性を確認することができます。

組織がデータリテラシー向上のプロセスを円滑に推進できるように、私たちは次のことに取り組みます。

- 企業データリテラシー強化に関する専門的視点、内容、および明確なアプローチを記載した包括的なレポートを、The Data Literacy Project の世界的な業界リーダーと協力して作成します
- 組織が自社の企業データリテラシースコアを知り、標準的なレベルと比較した自社のレベルを確認できるオンラインツールを開発します

